

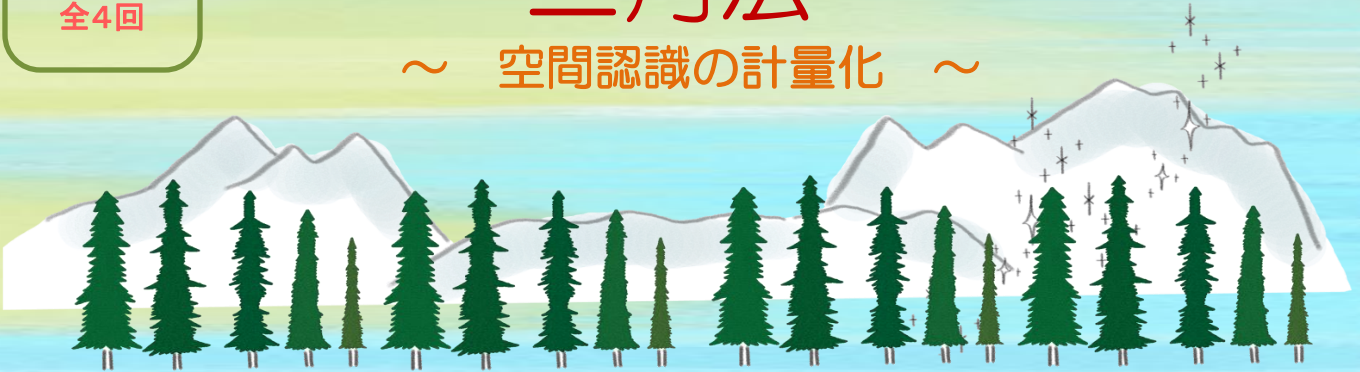


コーヒーを飲みながら楽しいひとときを過ごしませんか？

数学講座
全4回

三角法

～ 空間認識の計量化 ～



講師

池庄司 英臣

広島工業大学 情報学部 情報工学科 教授

1回

5月13日(金)

『昔の三角法』

2回

5月20日(金)

『三角形を解く

— 正弦定理と余弦定理 —』

3回

5月27日(金)

『三角関数の一般的性質』

4回

6月3日(金)

『微積分誕生後の三角関数』

暦の作成は古代の国家的事業であった。そのためには天文学が必要であり、天球上を移動する太陽、月などの位置観測のため三角法は自然に生まれてきたのであろう。またピラミッドの建設や土地測量などにも三角法の知識が必要とされたであろう。

我々の空間認識の基本は2点間の距離であり、また交差する2直線のなす角も基本的な量である。しかしそのような基本的な量が実際上の問題に生かされるためには“数表”が必要である。天球上の2点の作る角とその間の距離を調べるため、円のいろいろな中心角に対する弦の長さを表した表がすでにB.C.150年頃に作成されている。このような表があれば、比例関係を用いて、いろいろな量(長さ、面積、体積など)を求めることができる。我々も中学・高校時代に \sin , \cos , \tan の表を用いているいろいろな量を計算したのを覚えている。

本講座では我々の学んだ三角関数の歴史に触れながら、主として、長さとの関係をもっとも単純に表現している三角形の正弦定理と余弦定理を、そして三角関数の一般的性質について説明する。また微分積分学誕生の後それらがどのように変化したかにも触れる予定である。

池庄司 英臣

時間 19:00～20:30

会場 サロン・ド・カフェ

呉市中通3-7-1

聴講料 無料 (コーヒー代実費)

定員 15名(先着順)

申込締切 5月6日(金)

申込先 電話 (082)921-4222

FAX (082)921-8963

連絡先(住所・電話番号)をそえて、お申し込み下さい。

主催 広島工業大学(HIT呉イブニング塾企画グループ)

後援 呉地域オープンカレッジネットワーク会議

(呉市総務企画部企画情報課内)